糸魚川市の伝統芸能と年中行事

# 国指定 青海の竹のからかい

## 青海の竹のからかい

（昭和62年12月28日指定）

糸魚川市大字青海の東町と西町に江戸時代から続くとされる、全国的にもたいへん珍しい小正月行事です。新しい年が明けると、青海地区は東町と西町に分かれ、1月15日の竹のからかいに向けて準備を進めます。竹のからかい当日は隈取りをした若い衆などが、2本の竹を力強く引き合い、その年の豊漁・豊作を占います。その後は浜で「さいの神焼き」をして年中の厄病を払います。

## 青海の竹のからかいの流れ

### 1.お松とり

1月7日、東町と西町の小・中学生が早朝からそれぞれの町内を回り、門松、松飾り、しめ縄などを集め、これを公民館に保管しておきます。15日のさいの神の朝、浜へ出してそれぞれに高く積み上げます。お松さんの量が多いほうが良いとされています。

飾り竹（東方）

飾り竹（西方）

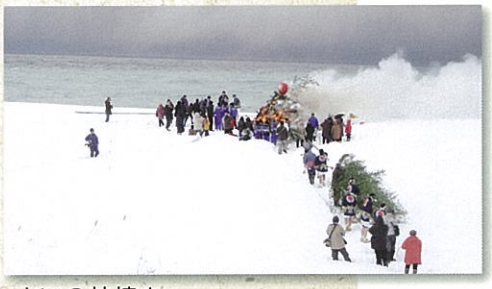
### 2.竹切り

1月10日前後に、東西それぞれの若い衆が青竹を選んで切り出します。この竹は、さいの神の依り代とされ、からかいの勝負をつける神聖なものであることから、厳重に取り扱われます。飾り竹用、勇み竹用、合せ竹用、細工竹用と合計4本が用意されます。

### 3.飾り竹の準備

数日前から飾り付けられた「飾り竹」は、1月15日の朝、竹の引き合いに先がけて東と西の陣屋前に立てられます。この竹にはさいの神が舞いおりるとされ、神への捧げものとして吹き流しや扇、八幡幣、しめ縄、御神酒樽などが美しく飾り付けられます。

竹のからかい



さいの神焼き

小中学生による竹のからかい

## 4.竹のからかい

1月15日の昼過ぎに、いよいよ竹のからかいが始まります。若い衆はハッピに鉢巻き、腰にはしめ縄を巻き、顔には隈取りをします。

東西の若い衆は、それぞれの陣屋からまず「勇み竹」を東西の中央（旧青海神社参道入口）まで持ち出し、立てた竹の周りを左義長の歌を歌って輪舞し士気を高めます。その後勇み竹の根元を前にしてそれぞれ進み、出された竹の半分程度が交差したあたりで、若い衆が竹にとびつき、東西の竹を重ねたまま抱え込んで引き合います。勇み竹による引き合いが2回、「合せ竹」による引き合いが1回の合計3回引き合われます。最終回の合せ竹による引き合いは若い衆の意気込みも違い、会場は一種独特の雰囲気に包まれます。

## 5.飾り竹なおし

最後の引き合いを終え、若い衆が陣屋へ戻ると、陣屋前に立ててあった飾り竹を倒します。これを「なおす」といい、飾りものも取り外されます。飾りもののうち八幡幣は、神棚の柱に縛っておくと魔よけになるといわれ、観衆によって競って取られます。

## 6.さいの神焼き

竹のからかいが終わると、飾り竹、勇み竹、合せ竹などが浜へ持ち出され、既にうずたかく積まれたお松さんなどの山に加えられます。御神酒をすえ、火がつけられると、若い衆はこの大火の周りを手を叩いてまわりながら、左義長の歌を繰り返し歌います。観衆はこの火で体を温め、餅などを焼いて食べ、年中の厄病を払います。

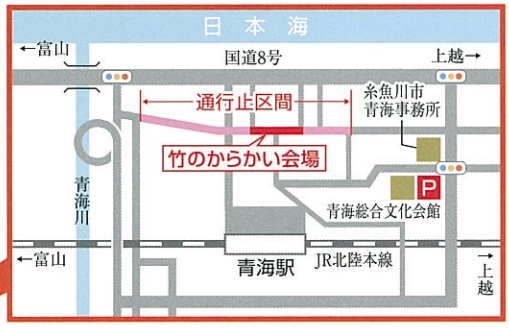
## 次代に伝える

竹のからかいは本来、若い衆と呼ばれる青年あるいは壮年が主体となって行われますが、伝統あるこの年中行事を次の世代に引き継ぐため、青海地域の小中学生による竹のからかいも行われています。3回行われる若い衆のからかいの合間にそれぞれ1回ずつ、合計2回引き合われます。

## 交通のご案内

【電　車】
JR「青海駅」から徒歩1分

【自動車】
北陸自動車道
「糸魚川IC」から15分



## 青海の竹のからかい日程

※時間は天候等によって前後します。

| | |
|---|---|
| 1月15日 | 12時30分頃～　竹のからかい<br>勇み竹による1回目のからかいです。 |
| | 13時頃～　竹のからかい（子ども）<br>青海地域の小中学校の児童・生徒による1回目のからかいです。 |
| | 13時10分頃～　福もちまき |
| | 13時30分頃～　竹のからかい<br>勇み竹による2回目のからかいです。 |
| | 14時頃～　竹のからかい（子ども）<br>青海地域の小中学校の児童・生徒による2回目のからかいです。 |
| | 14時10分頃～　福もちまき |
| | 14時30分頃～　竹のからかい<br>合せ竹によるからかいです。最終回のため、若い衆の気迫を間近で感じられます。 |
| | 15時30分頃～　さいの神焼き<br>青海浜（東町・西町それぞれの浜）で行われます。 |


糸魚川市教育委員会　文化振興課
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1-2-5
《TEL》025-552-1511　《FAX》025-552-8292
《URL》http://www.city.itoigawa.lg.jp/